



F101217JTA557(2048x1367) JTA560 CP141-1 (P) 海外留学を考える学生の進路相談に応じる西澤めぐみさん＝東京都新宿区の地球の歩き方T&E

JTA557 CP14... 101行 「家庭」(写真2) 「生活者の視点」 「海外進学」の可能性を見据えて 「若者をグローバル人材に」

西澤めぐみ



F101217JTA557(1474x2048) JTA560 CP141-2 (P) 西澤めぐみ

近年は海外に出る若者が減るなど、その内向き志向が指摘されています。一方、企業では社内公用語を英語にしたり新入社員を海外赴任させたりと、グローバル人材を求めようになっているます。政府も「新成長戦略」の中で、留学や研修の海外交流を図る学生らの数を30万人に増やす目標

私を打ち出したところですが、海外留学は20年以上、海外留学力ウンセラとして延べ1万人超の相談に応じてきました。留学に関心を持つ若者の数は今もそれほど減ってはいませんが、むしろ周囲の無理難題が壁になっていないようなケースが少なくありません。まずは親御さんや教

育関係者の皆さんに、「海外進学」について正しく理解していただきたいと思えます。ここで言う海外進学とは、海外の大学に入学し、必要単位を取得して卒業すること。短期の語学留学やワーキングホリデーなどは異なります。

最近の円高で留学費用は数年前に比べ驚くほど安くなっています。例えば、英国の大学は学費と生活費を含め年間250万円程度で行けますし、米国の州立大の中には同じく年間150万円程度で済むケースもあります。日本で下宿やアパート生活をしながら大学に通うのと、さほど変わらない水準なのです。

(了)

私が海外進学を勧めるのは、言葉もあまり通じず、知人や友人もいない環境で数年間、懸命に勉強すること、主体性が積極性、行動力が培われるからです。人に話しかけられなかった内気な若者がどんどん積極的にになり、自分の夢を前向きに追い掛けるようになったケースをたくさん見てきました。

ある有名進学校の教頭先生とお話ししたとき、「東大や京大を目指す生徒ではなく、グローバルな舞台で活躍できる人材を育てていきたい」と強く語っていました。確かに資源の乏しい日本にとって、人材こそが成長の原動力。親御さんや教育関係者の皆さんには、若者を育てる有力な選択肢